

雨

竹内浩三

さいげんなく
ざんござんごと
雨がふる
まつくらの空から
ざんござんごと
おしよせてくる

ぼくは
傘もないし
お金もない
雨にまけまいとして
がちんがちんと
あるいた

お金をつかうことは
にぎやかだからすきだ
ものをたべることは
にぎやかだからすきだ
ぼくは にぎやかなことがすきだ

さいげんなく ざんござんごと
雨がふる
ぼくは 傘もないし お金もない

きものはぬれて
さぶいけれど
誰もかまってくれない

ぼくは一人で
がちんがちんとあるいた
あるいた

〔愚の旗 竹内浩三作品集〕



竹内浩三(右)と中井利亮(左)

ネルの季節に

中井利亮

ネルの着物がしづかに木橋に立って
季節は佇んで流れを見ている
南風が木房をやさしくなびかせて
私の頬にふれるのは やわらかい風の手

私の長い影が 若葉になった桜たちの
並木を押えてゆく…ひるさがり…
寂しいが威張った足取りで
私の感情は林の青みにしか目を向けない

額にある重い苦しみのなかのなにかが
私の顔をこんなにもゆがめた
喉が渴えているように攀れている

私の憂鬱に私はゆえ知らない
林に捨てられた子猫の声をたてて
私の心は哭き叫んでいる

〔伊勢文学〕創刊号

詩

くのさざなら

詩のゼミナル 今夏より開講!

“あこがれ”に心が包まれている時、あるいは、どうしようもないいきどおりや“無力感”などがある時、詩が生まれます。詩のよろこびは、時には時代を超え、人々の心にすくに入り込み、甦ります。詩を学んでみませんか？
天性の詩人・竹内浩三をはじめ伊勢の四詩人を通して詩の心を学びます。

BLUE

北園克衛

いま
去っていく秋の
ブルーの風
の
なかに
いて

(中略)

白とブルー
の
編
にみちた
海
のブルー
を
見ている人の
細い背中
も
ブルーである

〔詩集「BLUE」〕

叫んでいる

岩本修蔵

風が初夏の中を通りぬけて
そこは海のように広くなった

溶ける魚など
うつるもの憂い対話で
いっぱいになった窓を
こわしている

美しいひとからはじまる物語りのはてに
逃げていく
明日の影のように
もういちど

〔詩集「無心の無心」〕

右：伊勢市立伊勢図書館に収蔵されている「伊勢文学」。(7号を除いて揃っている)

左：竹内浩三の個人雑誌「まんがのよろずや」に掲載の似顔絵ほか。



若者向け・詩のゼミナール 開講

一つ一つの言葉から紡ぎ出されて生まれる詩。

前衛詩の旗手・北園克衛や岩本修蔵、

同級生らと優れた同人誌「伊勢文学」を創刊した竹内浩三、中井利亮。

日本の文学史上、異彩を放つ詩人たちの言の葉にふれ、伊勢の風土を知る。

「詩のゼミナール」は詩を通じて言葉の力を磨きます。

日

本の繁栄とともに、一人の青年の詩が波紋を

広げるように人々に知られていきました。青年の名前はのちに「天性の詩人」と言われる

竹内浩三。大正十年(一九二一)、伊勢市で生まれ、昭和二十年、先の戦争で遠くフィリピンの地で二十三歳で亡くなりました。彼が世に知られるようになったのが、没後十年経って出された遺稿集『愚の旗 竹内浩三作品集』。これを読んで彼の生き方や作品に共感した人々が、まるでタスキを渡すように昭和から平成、そして、令和の時代へその思いを繋いで来たのです。

創作の源は「伊勢の風土」と「聖地性」

竹内浩三が中井利亮ら中学時代の同級生たちと同人誌「伊勢文学」を出していた頃、

東京では伊勢市生まれの二人の詩人・北園克衛、岩本修蔵が斬新な詩誌「YOU」(ウァウ)を創刊し前衛詩運動の旗手として活躍していました。二人は戦前から戦後にかけて多くの

詩集を出し、日本の詩壇界に異彩を放っています。四人の詩人に共通することは、表現の自由が確保されていない時代に、ヨーロッパの詩運動を日本語で実践しようとして先頭を走っていた二十代、三十代の「若者」たちであったことです。彼らは戦後の日本の詩人たちにも大きな影響を与え続けました。

その活躍の背景には生まれ育った伊勢の風土や聖地性に、少なくとも関係があるように思えます。一つ一つの言葉と詩心は神宮や五十鈴川、朝熊山、二見の海、また、神都の色濃く残る町並などの彼らが日常目にする風景の中から生まれ、紡がれて醸成されていったのではないのでしょうか。二〇二二年(令和三年)は竹内浩三が生まれて百年の記念の年を迎えます。

今年から生誕百年まで、詩のゼミを10回開講

そこで、生誕百年を迎えるこの機会に伊勢市立図書館と(有)伊勢文化舎の共催で、

四人の詩人の詩の持つ魅力を、今を生きる若者に知る機会をつくり、学び、親しむ場を提供したい。②創作体験を通じて詩のこころ、伊勢の風土にふれる。③日本で活躍する若い詩人を発掘したい、以上の趣旨で「詩のゼミナール」を二〇二二年まで十回開講することになりました。

今年入門編で四人の詩人の紹介と「そもそも詩とはなんだろう?」を、二年目は探索編で古今東西の名詩や伊勢の四詩人たちの詩の源泉を辿ります。三年目は実作編で、受講生の方に詩を作って頂きます。講師は南伊勢町在住で詩人の下社裕基さん。また、講座の中で、適時、詩人や朗読のゲストをお招きします。

講座と併せて所蔵本や貴重な「伊勢文学」を展示

講座とも一つ、図書館での展示を併せて開催します。伊勢市立伊勢図書館二階のふろさと文庫には四人の関連書籍が多数所蔵されており、また、同館は寄贈された貴重な

「伊勢文学」(創刊号から七号を除く十号まで)を所蔵しており、これらも随時、展示していく予定です。

詩へのいざない



竹内浩三 たけうち こうぞう
(1921-1945)

な「伊勢文学」(創刊号から七号を除く十号まで)を所蔵しており、これらも随時、展示していく予定です。

同館の司書が講座に合わせた展示コーナーでおすすめの書籍の展示と解説、四人の詩人の詩と解説、本人の執筆原稿などの展示を行います。最終の十回目には全ての展示コーナーを使い、「伊勢の詩人」展を開催する予定です。ご期待ください。



ふるさと文庫

Profile

下社 裕基
しもやしる・ひろき

南伊勢町東宮で1961年生まれ、現在も在住。竹内浩三と同じ日本大学芸術学部卒。詩集に、第一詩集「青空」(1992年)第二詩集「ポニーテールの月」(1999年)。最近は、手作り詩集「These Days」シリーズを2017年から三作続けて出版中。



中井利亮 なかい りしくけい
(1921-2002)

1921(大正10)年、度会郡二見町現伊勢市二見町に生まれる。34年、三重県立宇治山田中学校入学。竹内浩三と同窓。42年早稲田大学文学部入学。竹内らと同人誌「伊勢文学」を創刊。3号(8号まで)主に中井が編集。同誌には中井の詩も多く掲載されている。43年12月、海軍飛行予備学生として学徒出陣。56年、竹内の姉松島こう氏の依頼により竹内の遺稿集「愚の旗」を編集。構成、装幀、レイアウト等に編集者として優れた才能を発揮。参宮自動車有限会社代表取締役。郷土史にも造詣が深かった。2002年81歳で死去。ヤマトヒメ・ラインを走る「中井利亮遺稿集 2003 年中井刊行」がある。

「青春と詩 読んだり、書いたり」 講座概要

開講日	テーマ	講座の内容	展示内容
1回目 2019年 8月25日 (午後2時~4時)	「竹内浩三を知っていますか? 北園克衛は?」	【入門編 ①】 そもそも、詩とは?伊勢出身4詩人って?どんな詩を書いたの? 4人の代表的な詩を紹介しながら、詩の世界にふれる。	伊勢市立伊勢図書館 2階
2回目 2019年 12月15日 (午後2時~4時)	「竹内浩三の詩って、 カッコいい!」	【入門編 ②】 竹内浩三の詩の魅力は今も古びない…。なぜ古びないのか? 伊勢の詩人とどまらず、カッコいい詩の紹介をする。 歌の詞だって、カッコいい!	all about 4poet in Ise ~伊勢の4詩人のすべて~ Stage 1 竹内浩三・中井利亮・北園克衛・岩本修蔵の所蔵 図書の展示
3回目 2020年 3月22日 (午後2時~4時)	「詩って、なんだろう?」	【入門編 ③】 ゲストを招き、竹内浩三をはじめ伊勢の詩人たちの詩の魅力 を語りあう。詩情とは、なんだろう? 入門編・最終回なので、受講生とも感想を語りあう。	
4回目 2020年 期日未定	「詩の森に迷う」	【探索編 ①】 古今東西の名詩のなかに分け入る。 多様な詩の世界に翻弄されてみよう。 固定観念をすて、詩をあじわってみよう。香ってくるポエジー!	
5回目 2020年 期日未定	「伊勢は詩の泉か」	【探索編 ②】 伊勢4詩人のゆかりの地が伊勢には多くある。それぞれの詩人 の歩みに詳しい方々と、詩人たちの詩の源泉をさぐる。 図書館を飛び出して、『Field study of poetry in 伊勢』の回。	Stage 2 各詩人の人物像とゆかり の地を紹介
6回目 2020年 期日未定	「どんな詩がお好き?」	【探索編 ③】 伊勢図書館にある詩の本のなかから、自分好みの詩をさがし、 書き写してみよう。その詩を朗読してみて、どんなところが好き なのかが掴めたら、詩作の第一歩。	
7回目 2021年 期日未定	「詩をつくってみる」 ~その1	【実作編 ①】 詩の実作の基本のスタイルとは?つくる前の心がまえは? 気をつ けないといけない点は? どのようにしたら自分の詩が姿をあらわ すのかを手ほどき。	
8回目 2021年 期日未定	「詩をつくってみる」 ~その2	【実作編 ②】 受講生が習作した詩を持ち寄り、皆で感想を述べ合う。講師 からもアドバイスをもらい、ブラッシュアップしていく。受講生の 半数の人の詩の実作をもとに学ぶ。	Stage 3 各詩人の代表作の紹介と 解説 掲載図書の展示
9回目 2021年 期日未定	「詩をつくってみる」 ~その3	【実作編 ③】 8回目で発表しなかった残りの受講生が習作した詩をもとに学 ぶ。本人には気づかない点を指摘しあう、ブラッシュアップ・トレ ーニングの2回目。新たな「詩サークル」参加への誘いも。	
10回目 2021年 期日未定	終講記念イベント	受講生作品発表会・終講式	Final 竹内浩三生誕100年記念展示

岩本修蔵 いわもと しゅうざう
(1902~1978)

1908年(明治41)宇治山田市
岩淵町(現伊勢市岩淵町)に生ま
れる。27年(昭和2年)三重県立
宇治山田中学校を卒業。そのこ
ろ、詩を書き始める。東洋大学へ
入学し、北園克衛と出会う。30年、
北園との共同編集で、詩の雑誌
「化粧する銅像」翌年に「白紙」
32年に「MADAME BLANCHE」(マ
ダム・ブランシェ)を創刊し、日
本のモダニズム詩運動の先頭に立
つ。「青の秘密」(長くした真珠)
を刊行。35年、北園克衛と「YOU」
を創刊する。39年、召集され、
シベリアに抑留。帰還後「PAN
POSEN」(パン・ポゼン)を創刊、
主宰。シニカルで柔らかな人間味
のある詩を多く残している。「岩
本修蔵詩集」などがある。



北園克衛 きつたの の、かつえ
(1902~1978)

1902(明治35)年、度会郡四
郷村大字朝熊(現伊勢市朝熊町)
で彫刻家・橋本平八の5歳年下の
弟として誕生する。本名・橋本健
吉。20年中央大学専門部経済学
科に入学。生田春月の紹介で23
年「文章倶楽部」に詩を発表。
また未来派、立体派、表現派、
ダダの影響を受け、「GE:
GIMSAM・PRR・GIMEM」(ゲ
イギムギサム・プルルギムメム)
を創刊するなど前衛詩の分野で活
動を開始。28年に「日本における
シュルレアリスムの宣言」を上田敏
雄らと共同執筆。35年には、YOU
倶楽部を結成して機関誌「YOU」
(ヴァウ)を発行。詩集は24冊(生
前)出版しており、代表作として
『白のアルバム』、『夏の手紙』、『黒
い火』、『家』が知られる。「北園克
衛詩集」をはじめ写真、エッセイ、
評論、評伝を多くの書籍がある。

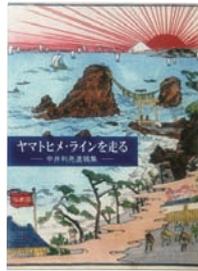


伊勢市立伊勢図書館2階のふるさと文庫では詩のゼミナールで紹介する竹内浩三・中井利亮・北園克衛・岩本修蔵の4詩人の著作を所蔵しています。どなたでもご覧いただくことができます。ぜひ、ふるさと文庫をご利用ください。

伊勢の4詩人

『ヤマトヒメ・ラインを走る
中井利亮遺稿集』私家版

(中井利亮／著 2003年)
若いころの詩作だけでなく、後年の郷土史家としての業績をまとめた遺稿集。



中井利亮

『伊勢文学』

宇治山田中学の同級生であった竹内浩三らと東京の大学時代に創刊した同人雑誌。浩三の出征後はその思いを継ぎ発行を続ける。

『愚の旗 竹内浩三作品集』
復刻版

(竹内浩三／著 伊勢文化舎 2018年)
1956年私家版として発行された竹内浩三の遺稿集を復刻。中井利亮の編集構成・装丁をできる限り再現した。



竹内浩三

『ぼくもいさに征くのだけれど
竹内浩三の詩と死』

(稲泉連／著 中央公論新社 2004年)

23歳で戦死した浩三と執筆当時同じ年頃だった著者。浩三の足跡をたどり、時代を超えて伝えられてゆくその詩について綴る。



『岩本修蔵詩・集成』

(岩本修蔵／著 ブルーキャニオンプレス社 1989年)

モダニズム詩人・岩本修蔵の作品を年代を遡りながら掲載する。本人が著者一覧に加えなかった詩集も収録。



岩本修蔵

『記号説 1924-1941』
『単調な空間 1949-1978』

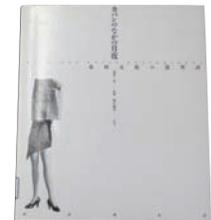
(北園克衛／著 思潮社 2014年)
一步先ゆく世界を描く北園克衛の実験的詩集。モダニズムの表現方法に注目。



北園克衛

『カバンのなかの月夜 北園克衛の造型詩』

(金澤一志／監修 国書刊行会 2002年)
言葉ではなくカメラを使って製作した写真=詩、「プラスチック・ポエム」の作品集。



『ぼくの父は詩人だった』

(岩本準／著 新潮社 1999年)

「父の職業は詩人です。」詩人として生ききった岩本修蔵の人生を息子の目線から語る。



『詩のゼミナール』お申し込みについて

- 共催 伊勢市立伊勢図書館／(有)伊勢文化舎
- 募集人員 30名
学生(中高生・大学生) 10名
青年(22歳～29歳) 10名
一般(30歳以上) 10名
※2年目以降も随時募集します。
定員になり次第締め切ります。
- 会場 伊勢市立伊勢図書館 2階 視聴覚室
- 参加資格 伊勢市とその近郊、三重県在住者
伊勢の詩人や詩に関心のある人、なるべく、全講座(10回)出席出来る人
- 受講料 無料
- 問い合わせと申し込み 伊勢市立伊勢図書館窓口で受け付けています。
※電話かFAXでも申し込み可能です。

伊勢市立伊勢図書館
〒516-0076 伊勢市八日市場町13-35
TEL 0596-21-0077 FAX 0596-21-0078

竹内浩三生誕100年(2021)記念出版
竹内浩三著 中井利亮・編集・装幀
『愚の旗 竹内浩三作品集』
復刻版ご案内

62年の時を経て復刻!
詩人・竹内浩三の原点の書。



復刻版の特徴

1. 初版本を徹底調査し、装幀など可能な限り近い形で復刻しました。
2. 詩の頁(53頁)を活版で印刷し、初版本の質感を再現。
3. 竹内研究者が竹内浩三と『愚の旗』について解説(書き下ろし)。
4. 品質保証のため一冊ごとにナンバリングを施しました。
5. 表紙は和紙カバーかけ、函に入れて永久保存版。

B5判変形 172頁 上製本・和紙カバー 函入り
定価8,640円(税込) 送料1,000円(北海道・離島は除く)

復刻制作 『愚の旗』復刻制作委員会
発行／発売(有)伊勢文化舎
※お問い合わせ (有)伊勢文化舎

アマゾンでもお求めできます